

無所属クラブ 杉本 信之議員



- 1 10月7日の台風18号について
- 2 F1グランプリについて
- 3 まちづくり条例について

質問1 職員及び消防団の対応と市民の避難状況はどうか。又、被害状況はどうだったか。

答弁1 50年前の伊勢湾台風と同じコースであったので、各災害対策本部長に早急に準備するように指示をした。市職員209名、支部職員49名で対応した。消防団は7日の広報活動に120名、8日は404名が各地区で対応した。市民センターに9名と小中学校に56名が自主避難した。床上浸水は5地区で18戸であり、公園内の倒木等36か

所の土木施設の被害で、人的被害はなかった。

質問2 職員の動員体制はどうだったか。又、協議会の取り組みと成果はどうだったか。

答弁2 協議会本部や道路パトロール等に21名、消防職員延べ88名が救護に当たった。鉄道利用やインターチェンジの分散利用をPRした。結果大きな混雑はなかった。観客は前回の36万人から21万人に減少したため、経済効果は前回よりは下回ると思われる。来年も支援活動を充実させたい。



F1グランプリ

質問3 まちづくり条例はいつ頃提案されるか。

答弁3 年度内に予定している。内容については答えられない。

無所属クラブ 板倉 操議員



- 1 不燃物リサイクルセンター2期事業
(1)進捗状況について
(2)容器包装プラスチック処理施設の安全性について
- 2 臨時職員の労働条件について

質問1(1) 当市で初めてのPFI方式での事業であり、民間業者に設計建設、運営管理を約128億で21年間まかせ毎月市が買い取る方法である。長期のため利子負担等の後年度負担の増大や隠れ借金を抱える危険、20年後まで市民サービスが確保されるか確認できない等の疑問や不安があるので反対してきた。しかし議決した事業であるので今後は事業契約書にそってチェックしていく。生活環境影響調査、協議会の設置、近隣対策、建中モニタリング等契約書

の約束事の実行、確認についての進み具合はどうか。

答弁1(1) すべて契約書にそって進み、特に事業周辺地域の環境調査は今後も年1回は実施し、近隣対策は特に重要と考え事業者にも協力を得ている。

質問1(2) 寝屋川市では容器包装プラスチック施設が原因と思われる健康被害が出ている。化学物質である廃プラを扱う施設の安全性はどうか。

答弁1(2) 各自治体によって異なる方法が用いられている。安全性が第1と考え進めている。

質問2 400人弱の臨時職員は、低賃金であり10年以上の勤務の人もいる。一律ではなく工夫をして待遇改善をし、徐々に下を上げることが重要だ。

答弁2 理解はするが少しずつ考えたい。

公明党 池上 茂樹議員



- 1 子ども手当で増税か
- 2 救急医療情報キットについて
- 3 耐震シェルターについて
- 4 緊急速報「エリアメール」について

質問1 扶養控除の廃止による増税額は。

答弁1 夫婦と15歳以下の子ども2人の世帯で給与年収700万円の場合、所得税、市県民税が17万6千円の増額だが、こども手当62万4千円支給になる。

質問2 救急患者の搬送時間の短縮や医療情報・緊急連絡先も把握できる「救急医療情報キット」がある。市民の生命を守る観点から導入してはどうか。

答弁2 患者の情報を速やかに収集でき、かかりつけ医療機関等の

情報が得られることから病院選定に要する時間の短縮に有効。

質問3 地震時に迅速な非難が困難な高齢者や身体に障がいのある方の安全を確保できる「耐震シェルター」がある。「耐震シェルター」事業の導入は。

答弁3 シェルターの導入を前向きに検討したい。

質問4 災害情報に関して、メールアドレスを登録する必要がなく、市独自の情報を配信でき、料金が掛からないエリアメールがあるが、導入の考えは。

答弁4 本市でエリアメールが受信できる端末契約数は約39,900台、災害時にエリアメールを活用すれば効果的であるため導入を検討したい。



耐震シェルター

政友会 今井 俊郎議員



- 1 鈴鹿シティマラソンについて
(1)多くの組織の協力体制は
(2)問題点と今後の方向性は
- 2 鈴鹿市の交通安全対策について
(1)交差点のカラー舗装化を

質問1(1) 開催には多くのスタッフが必要だが運営スタッフの確保はできているのか。

答弁1(1) 今年の大会は鈴鹿サーキットの周回コースとしており昨年より少ない約400名ほどで運営する。コース上の交通事故等の心配もなく兼務を行いながら安全に開催する。



交差点の危険箇所

質問1(2) 他市の大会では市民とランナーがふれ合える公道をコースに取り入れているが今後のコース設定ではどのように考えているのか。

答弁1(2) ランナーが沿道で受ける市民からの温かい応援に励まされながら走ることも楽しみとしていると思う。今大会終了後に参加者の声も聞きながら実行委員会にて検討していきたい。

質問2(1) 交差点における事故多発箇所や危険箇所において道路改良などに費用や時間を費やすより即効性のあるカラー舗装化を進めるべきでは。

答弁2(1) カラー舗装により道路の情報を目で運転者に伝える方法は効果のあるものと考え。今後とも地元要望や交通安全協会・警察等関係機関との協議により、現地にあった安全対策を進めていきたい。